



家庭科の 安全指導

～より安全に楽しく家庭科を学ぶ～



安全に対する意識を高めるために

子どもたちが楽しく、意欲的に実習に取り組み、家庭でも実践をしていくには、事故防止のための安全管理や安全指導が不可欠です。さまざまな事故が起こることを想定し、具体的に繰り返し指導していく必要があります。新編新しい家庭 5・6 では、実習中の安全指導を徹底するとともに、日常生活の中で、安全に対する子どもたちの意識を高めていくために、「安全マーク」を付して注意をうながしました。



ページ	内容	ページ	内容
8	こんろの周りの危険	55	ミシンの使い方 (よそ見・指をぬわない)
9	給湯器の周りの危険	69	フライパンの使い方 (油はねなど)
9	ぬれた床の危険	69	やけどの注意 (フライパンをかたづける際)
10	ガスこんろの使い方 (点火前・点火後)	74	熱中症の注意, 危険な場所での活動の注意
10	ガスこんろの使い方 (ガスもれ・地震)	78	洗剤による肌あれの注意
14	食材の洗い方	79	洗濯機の使い方 (脱水の場合)
15	やけどの注意 (ふっとうした湯をこぼす際)	95	弁当の作り方 (食中毒の予防)
19	さいほう用具の使い方	96	開封後の食品の取り扱い (日付表示との関係)
32	やけどの注意 (熱湯で湯引きの際)	97	買い物に行くとき
33	やけどの注意 (なべを洗う際)	105	照明器具の使い方 (目の健康)
39	信頼できる情報を得るための注意	106	暖房器具を使うときに起きる危険
49	洗剤の使い方 (使用方法・使用量・混ぜない)	116	食材の洗い方 (どろ・農薬などの危険)
50	ごみの出し方 (割れ物などを処分する際)	121	アイロンを使うときの注意



ガスこんろ

- ・ガスこんろの近くにあったプリントや、食材を入れていたビニル袋が燃えた。
- ・ガスこんろの近くに置いていたプラスチック容器が溶けた。
- ・ガスこんろで点火をした後、火がついていないことに気付いていなかった。
- ・弱火にしたところ、火が消えていることに気がつかなかった。



実習中のやけど

- ・ガラス鍋が冷めていない状態で水にさらしたら割れた。
- ・火をとめているのもう大丈夫と思い、なべやフライパンに触ってやけどした。
- ・使用済みの沸騰したお湯を流し台に捨てる際、やけどをした。



包丁の取り扱い

- ・服などに包丁が引っかかり足下に包丁が落ちた。
- ・調理台の隅に置いてあった包丁が落ちた。
- ・床が水でぬれていて、滑って転んだ。



ミシンの使い方

- ・ミシンを使っているとき、針が指にささったことがある。
- ・ミシンのセッティングをしているときに、友達が間違えて動かしてしまった。



アイロンの使い方

- ・アイロンの底が熱いのに気が付かず、触ってしまってやけどした。
- ・プラグを持ったときに感電した。
- ・使用途中のアイロンを立てずに置いたままにしたため、アイロン台が焦げた。

安全

点火する前に点検!

- ゴム管にひびはないか。しっかり接続しているか。
- 近くに燃えやすい物がないか。
- 換気をしているか。

点火した後に点検!

- 青いほのおが点火しているか。
- ほのおがはみ出していないか。
- ふきこぼれた後など、とちゅうで火が消えていないか。

安全

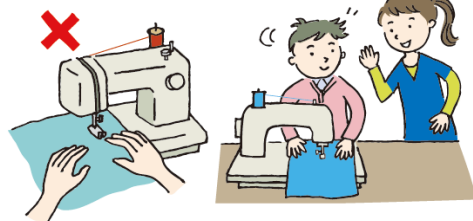
- ・なべは冷めてから洗う。

安全

- ・ふっとうした湯から、材料を取り出すときは、やけどに気を付ける。

安全

- ・針の下に手を入れない。
- ・針から目をはなさない。



- ・ひとり作業する。ほかの人が作業しているときは体やミシンにふれない。



安全

- ・水平な場所に置く。
- ・使わないときは立てて置く。
- ・やけどに注意する。
- ・使用中はそばをはなれない。
- ・コンセントからプラグをぬくときは、プラグを持ってぬく。
- ・ぬれた手でプラグにさわらない。
- ・冷めてからかたづける。

